



妙たえの光ひかり

通刊59号 復刊38号

2002年7月1日(季刊)

角田山妙光寺 発行
新潟県西蒲原郡巻町
角田浜 〒953-0011
TEL 0256-77-2025

フクロウの雛

夜に「グロリツケホーセッ」と鳴くのがこのフクロウ。明日は晴天だから洗濯して干しても大丈夫、と昔のひとがこの鳴き声で、明日の天気を予想した。いまの季節は昼も夜も、いろんな鳴き声が、境内の木や周囲の林から聞こえて賑やかだ。

成鳥はたまに見かけるが、雛の姿を見たのは初めて。夜行性だから、よほど熱心に観察して探さないと見ることはできない。この写真は、自然観察指導員の五味川さんが、夜の境内の松の木で見つけ、撮影されたもの。

主として標高千メートル以下の針葉樹に住む鳥だが、県内では平野部を中心とした神社、お寺などの大木のある場所を好んで住むという。松くい虫の被害で、たくさんあった松の大木がすっかり減ってしまいい、こうした鳥や獣が困っているのではと、案じている。

お経質問箱

小川 英 爾

新しいお経本をお配りしましたら、その内容はじめ幾つかの質問をいただきました。確かに改めては尋ねにくい、そういえば、という疑問ですので、取り上げてみました。なるべく中学生、高校生にわかるよう、優しく説明したつもりですが、大変難しいことで、十分ではありません。これをきっかけにして、より関心を高めてもらえればなによりと考えます。

問い 信仰すること、「利益」について教えて下さい。

信仰は、ずっと昔から未来に向かって私達を見守り、教えを説き続けてくださるお釈迦様に任せて生きていくことといえます。そのためには、自己中心的な気持ちを超えて、私たちの上に現れ出ようといつも念じておられるお釈迦様を、我が身に頂戴するという姿勢が求められます。信ずる世界を得ようとする私たちの積み重ねが、自然にお釈迦様の子としての自覚と行動を生みだし、ついにお釈迦様によって信じられる自分を生み出していることに気がつくことでしよう。

どんな人でも、いやでもいつか災難に出会わずにはいられません。そんなときにも「苦しみは苦しみであり、楽は楽である」と正面から事実を受けとめてゆける力、この力を得ることを「利益」といいます。そのご利益は、信仰によって得られるものといえます。

問い 死後の世界は本当にあるんでしょうか。

お釈迦様はこの質問に答えませんでした。誰も体験できない先のことはわからないことですから、

「考えるな」というのが、お釈迦様の態度です。ホーキング博士という車椅子の高名な物理学者は、最先端の宇宙理論に基づいて「我々の目には絶対見えない形で、別の世界が複数存在する」と言っているそうですから、科学を信奉する人でも、死後の世界を否定することはできないようです。

私たちは、将来に対して希望をもって努力します。同じことで、仏様が住まわれる浄土という世界に死後生まれ変わりたいと信じて、悩み苦しみに満ち満ちたこの世の世界で、今を一生懸命生きること、これが宗教ということです。

問い 法華経というお経にはなにが書かれてあるのでしょうか。

正式には『妙法蓮華経』といい、お釈迦様の教えの真髓が説かれています。まず前半は、私たちの悩み苦しみの原因は、執着や、貪り、妬みといった、私たち自身のなかにあるさまざまな欲望の心が造り出しているもので、これらを解き放す修行に励むことで、悩み苦しみから解放され、人間だれでもが平等に仏になれるとあります。

これを努力する人には、このお経を説かれている生身のお釈迦様を通して、永遠に生き続ける仏様がいつも傍らにいて救いの手を差し伸べる、と後半にあります。全体が多くのたとえ話で説かれ、ドラマチックですが、説明がないと容易にはわかりにくいものです。

問い 「南無妙法蓮華経」とはどんな意味ですか。

お釈迦様が説かれた最高の教え「妙法蓮華経」をナムム（心から信ずること）します、ということですね。日蓮聖人が初めて唱えられたもので、このなかにお釈迦様の精神がこもり、そのことで人間が救われ、社会が平安になると説かれました。

むろんただ唱えればいいというものではありません。そのなかの教えを学び修行し、どう日常生活に生かすか、真剣に考えることが大切です。

問い お経は、聞いて内容がわかるように読まないのはなぜですか。

お経はもともと「梵語」といってインドの古い言葉で書かれました。それを中国のお坊さんたちが、何百年もかかって中国語に訳したものが、いま私たちの手にしているお経です。膨大な量があります。

この中国語のお経は、中国の時代や地域によって読み方が違い、現在のお経の読み方も私たちの漢字の読み方とまた違っています。さらにもともと日本の文字も中国から伝わったものですから、梵語のお経を中国語にし、さらに日本語に訳すということがとても難しい作業、だということですよ。

もちろん言葉として訳すことはできませんが、その意味を正確に人に伝え、読んで、耳で聞いても美しい文章にするのが難しいということです。意味を知るために日本語に訳して解説した本はたくさん出ています。

問い 日蓮聖人とはどんな方なのでしょう

鎌倉時代、今の千葉県で漁師の子として誕生、十二歳で真言宗の寺で出家されました。比叡山、高野山等各地で勉強され、全てのお経を三回読み通し、お釈迦様の教えの真髄は「法華経」にあると自覚されます。この「法華経」によって混乱の世を救うことに命をかけることを誓い、数多くの書物を書かれて世間に訴え、幕府に進言しますが、幾多の迫害を受けました。多くの弟子を遺して六十一歳の生涯を閉じられたのち、晩年を過ごされた山梨県身延山にお墓が建てられ、その精神が住む霊地として日蓮宗の総本山となっています。

一般に他宗派への攻撃的姿勢ばかりが言われる日蓮聖人ですが、書き遺された書物、お手紙の多さは世界の宗教者のなかでも特段に多く、近親者を亡くした信者や、女性信者等への配慮が細やかで、情の深いご性格がしのばれます。

(参考文献 「お寺への質問」「仏教質問箱」「仏教と儒教」「科学者が問う―来世はあるか」)

檀徒総代二十八年



巻町 小林 雄 以さん（七十七歳）

妙光寺には三人の檀徒総代がいる。

そのなかの年長が小林さんで、先般決定した役員の内年規定により、来年三月で引退される。「二年程前から足が痛くて、歩くに不自由だから交代をお願いしたかった。定年制を作ってよかった」と言う。

先代住職の亡くなった年の、昭和四十九年に就任。翌年に現住職が入寺したので、以来二十八年間ずっと一緒に歩んできた。その間、戦争で失った梵鐘の復活、客殿建て替え、排水の悪い境内の整備、安穩廟建設、そしてこのたびの本堂建て替えと、若かった住職を支えて、妙光寺をもちたててきた。

ことに昭和五十六年の客殿工事は、景気のいい時代ではあったが、それだけに工事費もかさんで当初予算をはるかに超えた。さらに借り入れ金利も高く、役

員一同大変苦労した。なにしろ実績のないお寺に、一億円近い大金を貸し出す金融機関がなかったのだ。

小林さんは総代就任当時、四十九歳の働き盛り。農業の傍ら、地元農協の常勤役員として活躍していた。県から、周辺の農協と合併するように指導を受け、九つある農協のなかで最も若い専務としてこれに奔走、「涙が出るほど大変だった」と思い出す。八農協が合併し、新生巻町農協の二代目専務に就任。その力で、妙光寺は農協から融資を得て、客殿工事を完成させることができた。

普段は妙光寺と、巻町上地区二十五軒の檀信徒のパイプ役として世話に当たる。軒数が多いうえ団地もあって、日中は留守のお宅や、新規に檀徒になったお宅が多い。用件を伝えるために何度も何

度も足を運ぶことがある。それでも「顔を合わせれば何でも相談されたり、相手の事情もよくわかっていいんだ」と、苦にしない。

お盆には東京から応援のご住職の道案内を十年続け「檀徒回りを終わって、一緒に一杯飲みながらお話しを聞くのが楽しかった」という思い出話も。

長男は不動産業を営み、農業は孫が担って、小林さんは健康維持も兼ねて三反の柿山をまかしてきた。「それも足が痛くて手放した」そうだ。足以外は元気なので、顧問として今後も妙光寺には関わっていたくことになる。



花祭り

お釈迦様の誕生を祝う、花祭り、を、百人の幼稚園児が集まって催しました。

先代住職のころ、巻町仏教会として毎年実施していましたが、仏教会が休眠状態でここ何十年も途絶えていました。数年前に仏教会が再開し、その中心行事にしようと、復活第一回目の会場に、住職が副会長のこともあり妙光寺を提供したものです。

本来は四月八日なのですが、この辺では天候が安定しないので昔から五月や六月に行ってお



り。

最初は本堂でお勤め、花祭りのお話と紙芝居。続いて野外の院庭で、華に飾られたお釈迦様に、子供たち全員が順番に甘茶をかけました。少し早めの昼食は、園ごとに境内の木の下の敷いたシートの上で。親御さんの作ったお弁当を食べる

り、今回は六月五日でした。夏を思わせる好天に恵まれ、町内三寺院が経営する保育園、幼稚園の年長児と、保母さん、それに仏教会の住職方で総勢百人余



姿が楽しそうでした。

その後再び院庭に戻って、三園の子供たちは入り混じってのゲーム。抜けるような青空とまばゆいほどの山の緑のもと、子供たちの元気な声が境内に響き渡り、すばらしい光景でした。

「杜の安穩」工事と水屋移転

安穩廟の満杯にもなつて建設中の「杜の安穩」工事が、天候に恵まれ順調です。中央に丸い東屋があり、どなたでもお休みいただけます。

工事にもなつて、墓参用の水屋を寺側に二十メートルほど移動しました。ご承知おき願っています。また、工事で出た山砂が大量に余っています。欲しい方にさしあげます。

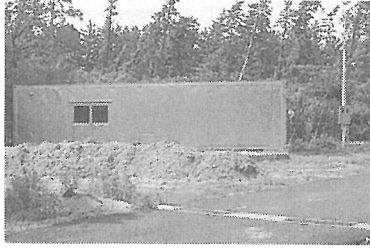
客殿正面屋根の銅板張り替え工事

築二十年の客殿ですが、正面の屋根で雨漏りしていました。冬場に雪が落ちるのを止める細工の箇所が、雪の重みでずれたのが原因です。今回その細工を外し、正面全体の銅版を張り替えました。工事費三百三十万円は、本堂工事の予備

費から計上しました。

裏口にコンテナを置いて倉庫に

本堂工事の際に納屋を新築しましたが、小さすぎて道具が納まりきれません。増築の経費はありませんので一計を案じ、中古の船のコンテナを購入。長さ十二メートルという大きなもので、たくさん収納できることになりました。同時に、敷地と道路境の約四十メートルにカイズカイブキを植えました。二百本近くいただいたものです。



檀信徒会費の納入お願いします

宗教法人妙光寺は、皆さんからのお布施と年会費、そして資産からの利子収入で運営しています。その会費を、これ

までの「護持会費」から「檀信徒会費」に名称を改めたことは、収支報告とともに前回お知らせしました。

この「檀信徒会費」の今年度分を、納入お願いします。金額はこれまで通りです。

県外及び世話人のいない地域には、振替用紙を同封しましたので、近くの郵便局からご送金ください。その際、郵便局発行のものを領収書とします。妙光寺に直接お持ちいただいたでも結構です。

本堂工事会計報告

先頃、本堂工事の一年点検を、設計士立ち合いで業者と行いました。位牌堂の襖張り替え等、ごく一部の修繕以外おむね良好でした。関連する工事も全て完了です。

寄付の未収金があつて、六月現在四百九十万円不足し、借り入れで対応しています。残金のある方には、厳しい経済状況で大変ですが、引き続きご協力お願いします。

芝居上演

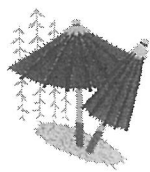
別紙ご案内のように、八月二十四日のフェスティバル安穩で芝居をやりまして。昨年五月の芝居では、四百人も集まって大好評でした。今回も涙あり、笑いありのわかりやすいものです。ぜひお出かけ下さい。前売りチケットは、世話人家にもお願ひしてあります。

「中野巨・陶芸作品展」開催

九月十三〜二十三日、院庭の回廊に展示します。中野さんは新潟市出身で、京都清水焼で修行の後、現在は滋賀県に工房をかまえて活躍中です。

新潟市内のデパート初め各地で個展を開いてきましたが、自然に近い風景のなかでと希望され、偶然にも妙光寺にご縁のある二人の違う方から、会場提供の問い合わせがあり実現しました。

進む里山の荒廃



県立巻高校教諭 藤田久

春、寺の池の横を通ってカタクリの花を見に山に入った。林道を行くと背の高い竹に行く手をさえぎられる。藪をかき分け進むと林砂防ダムが現れた。ここ

は工事用の林道で藪に松の倒木も混じっていて、数年前とはすっかり様変わりしていたのには驚いた。もちろん横から尾根にとつづくこともできず引き返すしかなかった。

また、角田登山道の「桜尾根コース」に初めて登ったのもこの春のこと。シーサイドラインの横から、いきなり急斜面にとつづくのだが、倒木がごろごろして道を右に左に迂回させられ、まるで砂山を這って登っているような思いもよ

らぬスタートだった。雪割草が咲き乱れる春の人気コースであると聞いていたのに、登山道はこの有様だ。

竹藪の拡大が意味するもの

松枯れの方は、以前の白骨化した風景から先端が折れて立ち木のないものに変わっていた。しかし、竹藪の拡大はヤタケ、シノダケ、モウソウチクなどの種類で巻の福井や寺泊の夏戸などの里山で最近、見かけてきたばかりなので角田浜だけの風景ではない。これは竹の子採りや七夕、竿用に里の人たちが利用しなくなったのが原因である。伸びすぎて密生すると薄暗くなり、そのため林内の立ち

木が枯れて周囲の竹を巻き込んで倒れ、すぎましい荒廃の風景が広がるのである。こうなると水源滴用や土砂流出防止という保安林的機能が失われるところの騒ぎではない。一斉に枯れて山崩れなどの災害につながりかねない。

最近では地主すら持ち山に入ろうとしないから、このような現状を知らない地主も少なくない。それとも手をこまねいているのが大方であろうか。

林野業行政が変わっても

日本の森林面積は国土の70%を占め、緑豊かな山林を思い浮かべるだろう。しかし、現状は人工林が40%を占め、安い外材に太刀打ちできなくなり、林業は衰退の一途をたどるばかりだ。営林署は赤字べらしにリストラの最中にある。とても持続可能な森林経営どころの話ではない。間伐されないスギの林は放置され、大きくなってたくさんの花をつけるようになり花粉症の弊害も起きている。

林野行政も現状はわかっていて、ブナ

の白神山地や縄文杉の屋久島のように原生林を保全し世界遺産に登録するなど森林の公益的機能を見直し、方針の転換をはかっている。その一方でスキの植林に未だ補助金を出して森林生産組合を縛っている。植樹祭が今年も偉い方を招いて開かれた。県内持ち回りの植樹祭もある。「順番だから仕方なく引き受け、適当な場所を捜して雑木の苗を植えてはいるものの」と本音を語る役場担当者と話をしていても県の指導のままにやらされるといった具合で、どんな森にしようかという未来への夢のかけらさえ感じられない。知事が唱えた『緑の百年物語』の実態とは、こんなものである。

みんなで森へ行こう

最近、市民の手で森を生き返らせようという動きが見られる。環境問題への関心の高まり、都市住民が安心して水を利用できるのは山間地の森のおかげであるから、林業従事者と手を取り

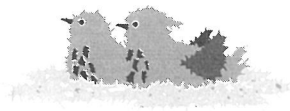
あつて森を守ろうという主旨である。

関東における動きは新潟とは少し違う。雑木林がかなり残されているので宅地開発がせまり、地域住民が中心となり森を守り、維持するために忘れかけていた落葉かきや炭焼きなどの伝統的な森の利用を見直すケースが多い。

では林業とまったく無縁な私がどうやって森とかかわれるのか。これも手をこまねいてしまう理由の一つである。まずは地主と友達になり、考えなりを理解してもらおうことだろう。六年も前の話だが、加藤剛主演の映画『草刈り十字軍』を自主企画で巻町文化会館において立ち上げたことが財産になっている。

それがきっかけで私にも森林整備のチャンスが訪れた。かつて地域の優良林業経営として実績のある、福井森林生産組合関係者に後援を依頼した。またチケットの販売支援のなかからネットワークができ、チェンソーの使い方や伐採を指導してくれる人、ボランティアとして参加してくれる人達が集まった。さっそく

福井の里山が活動拠点となり、松枯れのアカマツを伐採し、毎年少しずつ倒木を片付けながら竹刈りを続けたところ、雑木が生き生きとよみがえってきた。そんな取り組みを通して里山に定期的に入り、管理さえしていけば森が復活することがわかってきた。今は森林伐採、整備のノウハウをたくわえ、次の場所や活動を捜しているところである。

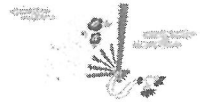


フェスティバルご案内 他

第十三回目になる今年のフェスティバル安穩は、別紙ご案内のように、芝居を鑑賞します。「命と平等」について考えようと、内容を関係者で相談し、あまり難しい話より、皆で芝居を見て語り合ったら、となった次第です。

問題は当日の日程と、経費です。野外劇になります、明るいと照明が使えません。法要を先にして、芝居の開演時間を少しでも遅くしました。全体の終了時刻が遅くなるぶん、受付時刻も遅らせましたから、昼食を遅めに取ってお出かけ下さい。法要がまだ日差しの強い時間帯になりますので、帽子をご用意ください。交流パーティー終了後のバスは、新潟駅まで出します。

総勢十七名の劇団が、二泊三日で取り



組む大舞台です。経費も大きく、一部妙光寺で負担しますが、参加される方には入場券としてご負担いただきます。この入場券は一般にも販売します。ぜひお友達等をお誘いいただきたく、ご協力お願いします。交流パーティーの参加費を下げましたので、こちらもぜひどうぞ。入場券は事前購入制です。年会費と一緒に、ご送金かご持参でお願いします。ご送金の場合は、折り返し入場券を郵送します。

また前日の二十三日（金）午後、舞台設営作業を行います、人手が足りません。ビールケースを運ぶ等の軽い仕事ですので、ご都合のつく方はお願います。事前にご連絡ください。

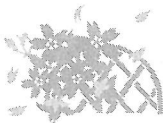
『杜の安穩』の工事に関連して、安

穩廟にも参道と、全面芝生を敷設しました。また、休憩用に水の池を配した丸いあずま屋ができます。一方で、移転のために水屋が若干遠くなりました。ご理解ください。

『杜の安穩』案内パンフレットが八月にできます。それまでは仮パンフです。ご紹介等で希望される方にはお送りしますのでお知らせください。

年会費の納入をお願いします。安穩会員二千五百円、檀信徒扱いの方一万円。郵便局からの送金か、直接お持ちいただいても結構です。

フェスティバル安穩の法要での献灯ロウソクも、併せてお願いします。



「こ」と「ば」

小川 なぎさ

ワールドカップで日本中が沸いている。六月十四日の日本が勝って決勝トーナメント出場を決めた日、トルシエ監督がインタビューに答えていた。「長い間のみんなの努力が報われた」と。

スポーツは勝負の世界だから、勝ってこそ喜びが伝わってきてじーんとした。もちろん監督のこの言葉が一番嬉しかったのは選手たちだろうが、私もこの言葉には感動した。

一方で、当然決勝トーナメントに残らなうと期待されていたのに敗退した、フランスチームのジダン選手は、「穴があったらはいりたい」と言い残した。また名前は忘れてしまったが、アルゼンチンのある選手も今にも泣き出しそうな面

もちで「とにかく悲しすぎて何と言った方がいいか分からない」と語っていた。勝っても負けても、そのあとの言葉には真摯で飾らない本音が表れているように、勝った人のことばも胸がしめつけられるような気がした。

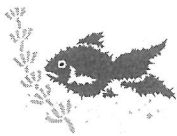
さて、ちょうどその頃、住職の姉の長男の結婚式に、法事の先約で出席出来ない住職の代わりに行って来た。実は前にここでお話したこともあったが、義母の介護をめぐって親戚の間でちよつとしたトラブルがあった。だから気が重かったけど、いつまでもいろいろな気持ちを引きずってもいられないと思い、勇気(?)を出してみた、と言うところ。

結果はオーライ。それまでのわだか

まりは、みんなとおめでたい席で談笑することのでかかなりのところ解消したように思う。

言葉は人を傷つけることもたくさんある。でもその傷を癒すのもやはり言葉だと実感した。

日々暮らしの中には、勝負に勝つ事も負けることもある。勝敗はなくともあまいな中で苦しむこともある。でも人との関わりのなかで、言葉を通して伝える事がどれだけ重要か、言葉の重さを今つくづく感じている。



行事案内

七月初旬 関東地区お盆経

関東地区の檀信徒宅に、住職が日時ご連絡のうえお伺いします。

八月一日(木) お盆参り、施餓鬼法要

午前六時 暮お経受付開始(安穩廟のお経も受け付けます)

午前十時半 安穩廟合同法要 午前十一時 施餓鬼法要・新盆法要

昼十二時 おとき(どなたもどうぞ) 午後一時 お説教

七月中に世話人が各家に檀信徒会費、施餓鬼塔婆供養料をいただきにありがとうございます。

県外、新潟市等遠方の方は、郵便振替か八月一日にお持ち下さい。塔婆供養の当日

申し込みは、混雑して間に合いません。事前にお申し込みのうえ、供養料は送金か、

八月一日持参でお願いします。

八月十三〜十六日 お盆柵経

例年通り住職と鎌田、それにお手伝いの成川上人の三人が、手分けして全檀信徒

宅を回ります。予定を知りたい方、留守になる方、十日以降にお電話ください。

新潟市等、県内遠方のお宅は十日前に伺いますが、予め日時をご連絡します。

八月十九日(月) 岩屋七面宮祭礼

午前十時半 読経開始 お昼にお供物で赤飯差し上げます

八月二十四日(土) 第十三回フエスティバル安穩

参加自由。詳細は別紙案内で。

九月十三〜二十三日 中野巨陶芸作品展

本堂前の院庭回路で、新潟市出身の陶芸家中野巨さんの作品を展示します。期間

中コンサート計画もあり、詳細が決まり次第、ご案内します。

九月二十三日 秋季彼岸会

午前十時半 安穩廟合同法要

昼 十二時 おとき(どなたでも) 午前十一時 彼岸中日法要

午後 一時 住職説教



あ・と・が・き



お経質問箱は手短かな文章にするのがとても難しく、改めて勉強不足を痛感させられました。高校生の娘たちに読ませましたが、「分かるようで分からない」との厳しい批評には力が抜けました。皆さんも同感のことでしょう。とりあえずの試みと、ご理解ください。

この冊子も毎回一人で編集してきますので、まとまった文章を書くのも容易ではありません。編集を外部の専門家をお願いすることも考えますが、手作りの味でいきたいと思うので、悩むところです。どうか今度も、予定日にお届けできそうであれば、梅雨空の毎日、元気で経過してください。

小川